

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2018年9月7日(07.09.2018)



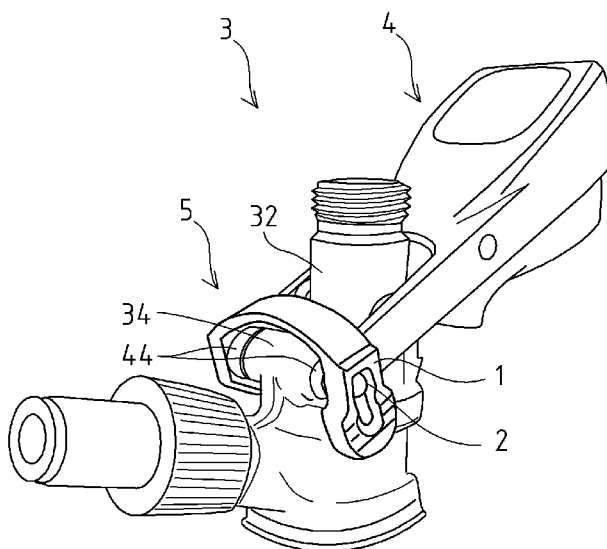
(10) 国際公開番号

WO 2018/159216 A1

- (51) 国際特許分類:
B67D 1/04 (2006.01)
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2018/003683
- (22) 国際出願日: 2018年2月2日(02.02.2018)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (30) 優先権データ:
特願 2017-035644 2017年2月28日(28.02.2017) JP
- (71) 出願人: アサヒビール株式会社 (ASAHI BREWERIES,LTD.) [JP/JP]; 〒1308602 東京都墨田区吾妻橋一丁目23番1号 Tokyo (JP).
- (72) 発明者: 山下 直之 (YAMASHITA,Naoyuki); 〒3020106 茨城県守谷市緑1丁目1番地21 アサヒビール株式会社 容器包装研究所内 Ibaraki (JP). 北野 純一 (KITANO,Junichi); 〒3020106 茨城県守谷市緑1丁目1番地21 アサヒビール株式会社 容器包装研究所内 Ibaraki (JP). 青野 洋久 (AONO,Hirohisa); 〒1400015 東京都品川区西大井六丁目7番2号 株式会社青野工業内 Tokyo (JP).
- (74) 代理人: 大上 寛 (OGAMI, Hiroshi); 〒1600023 東京都新宿区西新宿5-5-1-1001 Tokyo (JP).
- (81) 指定国(表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ,

(54) Title: PIN FIXING TOOL FOR DISPENSE HEAD, AND PIN MEMBER HAVING SAME

(54) 発明の名称: ディスペンスヘッド用のピン固定具、及び、それを有するピン部材



(57) Abstract: [Problem] To propose a novel configuration for a pin fixing tool that is used for fixing a rotary pin in a handle of a dispense head. [Solution] This pin fixing tool 1 is for detachably fixing, to a handle 4, a rotary pin 2 provided to the handle 4 of a dispense head 3 to be mounted to a beverage container in order to extract beverage therefrom, and has a regulation part 11b for regulating the angular variation of the pin fixing tool 1 itself with respect to the handle 4. The pin fixing tool 1 has a first engagement part 11 disposed on one longitudinal side of the rotary pin 2 and a second engagement



BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DJ, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, JO, KE, KG, KH, KN, KP, KR, KW, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.

- (84) 指定国(表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

- 一 国際調査報告(条約第21条(3))

part 12 disposed on the other longitudinal side of the rotary pin 2, while the regulation part 11b is provided to the first engagement part 11 and/or the second engagement part 12 so as to regulate the rotation by coming into engagement with a portion of the handle 4.

(57) 要約: 【課題】ディスペンスヘッドにおいてハンドルの回転ピンを固定するためのピン固定具について、新規な構成を提案する。【解決手段】飲料容器に取り付けて飲料を外部に取り出すためのディスペンスヘッド3のハンドル4の回転ピン2を、ハンドル4に対して着脱可能に固定するためのピン固定具1であって、ハンドル4に対する自身の角度変更を規制するための規制部11bを有する、ピン固定具1とする。ピン固定具1は、回転ピン2の長手方向一侧に配置される第一係合部11と、回転ピン2の長手方向他側に配置される第二係合部12と、を有し、規制部11bは、第一係合部11、又は/及び、第二係合部12に設けられ、ハンドル4の一部に係合することで回転が規制される構成とする。

明 細 書

発明の名称：

ディスペンスヘッド用のピン固定具、及び、それを有するピン部材

技術分野

[0001] 本発明は、樽容器などの飲料容器に取り付けて飲料を外部に取り出すためのディスペンスヘッドに関するものであり、より詳しくは、ディスペンスヘッドに設けられるハンドルの回動ピンに関するものである。

背景技術

[0002] 従来、例えば、特許文献 1 に開示されるように、樽（タンク）容器などの飲料容器に取り付けて飲料を外部に取り出すためのディスペンスヘッドが知られている。

[0003] この種のディスペンスヘッドは、回動操作されるハンドルが設けられており、ハンドルを押し下げると炭酸ガス経路が飲料容器内に通じ、炭酸ガスによる飲料の押し出しがなされる構成としている。また、ディスペンスヘッドを取り外す際にハンドルが押し上げられると、炭酸ガス経路が閉鎖される構成としている。

[0004] このような押し下げ操作、押し上げ操作が行われるハンドルは、ディスペンスヘッド本体に対し回動ピンを介して枢結されており、ハンドルは回動ピンを軸に回動操作される。

[0005] また、ディスペンスヘッドは定期的にメンテナンスが必要とされるものであり、そのメンテナンスの際には、回動ピンを抜いてハンドルを本体から取り外して分解し、グリスを塗布するなどした後、再び回動ピンを用いてハンドルを本体に組み付けることが行われる。

先行技術文献

特許文献

[0006] 特許文献1：特許第 6 0 1 9 0 2 7 号明細書

発明の概要

発明が解決しようとする課題

- [0007] 上述したメンテナンスの際には、回動ピンの抜き差しが行われるが、メンテナンス性を考慮すると、回動ピンを抜き易い構成が好ましいといえる。
- [0008] このようなメンテナンス性が求められる一方で、回動ピンが意図せずに抜けてしまうと予期せぬ不具合が生じる可能性がある。このため、回動ピンの抜けについては確実に防止することが求められるものである。即ち、回動ピンが抜けるとハンドルも本体から脱落してしまうことになり、仮に、炭酸ガス経路と繋がった状態でハンドルが脱落すると、高圧の炭酸ガスが勢い良く漏れるなどして、予期せぬ被害が生じる可能性があるのである。
- [0009] 本発明は、以上の課題に鑑み、ディスペンスヘッドにおいてハンドルの回動ピンを固定するためのピン固定具について、新規な構成を提案するものである。

課題を解決するための手段

- [0010] 本発明の解決しようとする課題は以上の如くであり、次にこの課題を解決するための手段を説明する。
- [0011] 即ち、請求項 1 に記載のごとく、
飲料容器に取り付けて飲料を外部に取り出すためのディスペンスヘッドのハンドルの回動ピンを、前記ハンドルに対して着脱可能に固定するためのピン固定具であって、
前記ハンドルに対する自身の角度変更を規制するための規制部を有する、ピン固定具とする。
- [0012] また、請求項 2 に記載のごとく、
前記回動ピンの長手方向一侧に配置される第一係合部と、
前記回動ピンの長手方向他側に配置される第二係合部と、を有し、
前記規制部は、前記第一係合部、又は／及び、第二係合部に設けられ、前記ハンドルの一部に係合することで回動が規制される構成とする。
- [0013] また、請求項 3 に記載のごとく、
前記第一係合部は、

前記回転ピンを挿入するための貫通孔を有する。

[0014] また、請求項 4 に記載のごとく、

前記第二係合部は、

前記回転ピンを挿入するための貫通孔を有する。

[0015] また、請求項 5 に記載のごとく、

前記第二係合部の前記貫通孔は、前記回転ピンと係脱可能に嵌合される。

[0016] また、請求項 6 に記載のごとく、

前記第二係合部の前記貫通孔は、

前記回転ピンの軸方向に移動して前記回転ピンとの係脱がなされる第一孔部と、

前記第一孔部から半径方向にずれた位置において、前記回転ピンとの係脱がなされる第二孔部と、

前記第一孔部と前記第二孔部の間で前記回転ピンを移動させるための溝部と、

を有する。

[0017] また、請求項 7 に記載のごとく、

前記第一係合部と前記第二係合部を繋ぐ連結部を有する。

[0018] また、請求項 8 に記載のごとく、

請求項 1 乃至請求項 7 のいずれか一項に記載のピン固定具と、前記回転ピンと、を有するピン部材とする。

発明の効果

[0019] 本発明によれば、ピン固定具の角度変更（回転）によって生じる回転ピンの抜けなどといった不具合の発生を防止できる新規なピン固定具を実現することができる。

図面の簡単な説明

[0020] [図1]本願発明に係るピン固定具を利用したディスペンスヘッドについて示す斜視図。

[図2] (A) はピン部材の一側からの斜視図。(B) はピン部材の他側からの

斜視図。(C)はピン部材の正面図。

[図3] (A)は規制部の構成について示す図。(B)はピン固定具がハンドルと共に回転する様子を示す図。

[図4] (A)は第二係合部のピン固定具の構成について示す図。(B)は回転ピンの形状について説明する断面図。(C)第二係合部のピン固定具の構成について示す図。

[図5] (A)はピン固定具の連結部を撓ませた状態について説明する図。(B)は回転ピンの挿入について説明する図。(C)は回転ピンを第一孔部に嵌め込んだ状態について示す図。(D)は回転ピンを第二孔部に嵌め込んだ状態について示す図。

発明を実施するための形態

[0021] 以下、添付図面を参照しながら本発明の容器停止装置をその例示的な実施形態を通して説明する。

図1は、本願発明に係るピン固定具1の使用状態について示す図である。ディスペンスヘッド3の本体32にピン挿通部34が設けられる。このピン挿通部34とハンドル4の先端部44が、回転ピン2を介して連結される。

[0022] そして、回転ピン2の意図せぬ抜けを防止するために、ピン固定具1が用いられる。メンテナンス時には、ピン固定具1による回転ピン2のロックを解除して回転ピン2を抜き出すことで、ハンドル4と本体32を分解できるようになっている。

[0023] 図2(A)(B)(C)は、ピン固定具1と回転ピン2から構成されるピン部材5について示すものである。

ピン固定具1は、互いに離間して配置される第一係合部11、及び、第二係合部12と、第一係合部11と第二係合部12を繋ぐ連結部13と、を有して構成され、全体として一つの部材として構成されている。

[0024] ピン固定具1は、合成樹脂成形品にて構成することができ、適度に変形、撓むことによって、後述するように、回転ピン2に対する係脱が可能に構成される。

- [0025] 回転ピン2は、ステンレスなどの金属により構成することができ、同じく金属製のディスペンスヘッドの本体と、ハンドルとを枢結させるものである。なお、回転ピン2は金属製とする他、合成樹脂製としてもよい。
- [0026] ピン固定具1の第一係合部11には、回転ピン2の一側部分を固定するためのピン固定部11aが設けられる。本実施例のピン固定部11aは、貫通孔にて構成されており、回転ピン2の一端を圧入して挿入することで、回転ピン2がピン固定部11aに対し強固に固定されるようになっている。
- [0027] また、ピン固定部11aが貫通孔にて構成されることで、回転ピン2が半径方向に抜けることを効果的に防ぐことができる。即ち、例えば、作業者の指が第一係合部11に引っかかり、第一係合部11の部分が押し上げられるような場合、仮に、U字条の切り欠きにてピン固定部11aが構成されると、回転ピン2がピン固定部11aから抜け落ちてしまうことが懸念されるが、貫通孔で構成することでこのような抜け落ちを防ぐことができる。
- [0028] なお、ピン固定部11aの構成は、回転ピン2の一部を第一係合部11に固定できる構成であれば特に限定されるものではない。つまり、第一係合部11と回転ピン2の固定（連結）を維持できる構成であればいかなる構成も採用可能である。また、回転ピン2は第一係合部11を突き抜けてもよく、突き抜けなくてもよい。また、回転ピン2を合成樹脂にて構成する場合には、回転ピン2とピン固定具1を一体成形とし、ピン固定部11aと回転ピン2とが連結されてなる構成とすることもできる。
- [0029] 第一係合部11には、ハンドル4に対して自身の回転による角度変更を規制するための規制部11bが設けられる。本実施例では、図3（A）（B）に示すように、規制部11bは、回転ピン2がハンドル4の貫通孔44aに挿入された状態において、ハンドル4の先端部44（アーム部）の平坦な下面に当接する平坦面で構成される。なお、このような実施例で構成する他、規制部11bを第二係合部12にも設ける、或いは、規制部11bを第一係合部11の代わりに第二係合部12に設ける、こととしてもよい。
- [0030] このような構成により、ピン固定具1に手が触れるなどして、ピン固定具

1の角度変更（回転）が生じようとする際には、規制部11bがハンドル4の先端部44（下面44s）に当接しているため、その角度変更（矢印M方向の回転（3（A）））が規制される。

[0031] さらに、本実施例では、規制部11bの上方にハンドル4の先端部44（上面44u）に当接する第二規制部11cを設けることとしている。これにより、両規制部11b、11cにより、ハンドル4の先端部44（アーム部）を挟み込むようにして、ピン固定具1の角度変更をより確実に規制することができる。なお、本実施例では、図2（C）に示すように、第二係合部12側にも第二規制部12cが設けられ、第二係合部12側においてもハンドルとの係合が行われるようになっている。

[0032] 以上の構成により、ハンドル4との関係において、ピン固定具1は常に規定の角度（図1の状態）で配置されることができる。仮に、ピン固定具1の角度変更（回転）が許容されてしまうと、例えば、連結部13がハンドル4の先端部44よりも前側に倒れるように移動して、連結部13に指が引っかかり、これにより、ピン固定具1を引っ張り上げて回動ピン2を引き抜いてしまうことや、ピン固定具1が回動ピン2から外れる等といった不具合の発生が懸念されるが、本実施例によればこのような不具合の発生を防止することができる。

[0033] 図2（A）（B）に示すように、第二係合部12には、回動ピン2を固定するためのピン固定部12aが設けられる。本実施例のピン固定部12aは、貫通孔にて構成されており、回動ピン2の一端が貫通孔に対して挿入される、又は、貫通孔から抜き出されるようになっている。

[0034] また、ピン固定部12aが貫通孔にて構成されることで、回動ピン2が半径方向に抜けることを効果的に防ぐことができる。即ち、例えば、作業者の指が第二係合部12に引っかかり、第二係合部12の部分が押し上げられるような場合、仮に、U字条の切り欠きにて第二係合部12が構成されると、回動ピン2が第二係合部12から抜け落ちてしまうことが懸念される。この点に関し、貫通孔で構成することでこのような抜け落ちを防ぐことができる。

。

[0035] なお、第二係合部 1 2 の構成は、回動ピン 2 の一部を第二係合部 1 2 に対し固定／固定解除できる構成であれば特に限定されるものではない。つまり、第二係合部 1 2 と回動ピン 2 の固定／固定解除が繰り返し可能な構成であればいかなる構成も採用可能である。また、回動ピン 2 は第二係合部 1 2 を突き抜けてもよく、突き抜けなくてもよい。

[0036] 本実施例では、図 4 (A) ～ (C) に示すように、第二係合部 1 2 にはピン固定部 1 2 a が形成される。このピン固定部 1 2 a は、第一孔部 1 4 と、第二孔部 1 5 と、第一孔部 1 4 と第二孔部 1 5 を連通させる溝部 1 6 と、を有する構成としている。第一孔部 1 4 と第二孔部 1 5 は、互いに回動ピン 2 の半径方向にずれた位置に配置され、溝部 1 6 により両者が連通されている。

[0037] 本実施例の回動ピン 2 は、その端部に周方向の環状溝部 2 a が形設されており、この環状溝部 2 a が第一孔部 1 4 に嵌め込まれた際には、環状溝部 2 a に形成される縦壁面 2 x が第一孔部 1 4 の周辺に突き当たり、回動ピン 2 の軸方向の移動が規制される。つまり、縦壁面 2 x が第一孔部 1 4 に引っかかるようにして、回動ピン 2 の抜けが規制される。

[0038] 図 4 (A) (B) に示すように、溝部 1 6 の幅 1 6 w は、環状溝部 2 a の幅 2 w よりも僅かに狭く構成され、力を加えることで、第一孔部 1 4 (又は第二孔部 1 5) に進入した環状溝部 2 a の部位を、溝部 1 6 を通じて第二孔部 1 5 (又は第一孔部 1 4) に移動させることができるようになっている。

[0039] 図 4 (A) に示すように、第二孔部 1 5 の孔径 R 1 5 は、第一孔部 1 4 の孔径 R 1 4 よりも小さく構成され、第二孔部 1 5 の周囲に係合壁部 1 5 x が構成される。図 5 (C) に示すように、第二孔部 1 5 に回動ピン 2 の環状溝部 2 a が位置する状態では、回動ピン 2 の縦壁面 2 x が係合壁部 1 5 x に係合し、回動ピン 2 の軸方向の移動が規制される。つまり、縦壁面 2 x が係合壁部 1 5 x に突き当たるようにして、回動ピン 2 の抜けが規制される。

[0040] 図 2 (C) 及び図 5 (C) に示すように、第二係合部 1 2 の下部は、その

下部が開く方向（第一係合部 1 1 と反対側方向）に僅かに傾斜しており、手指によって第二係合部 1 2 を摘み易い構成となっている。また、図 4（C）に示すように、第二係合部 1 2 の表面には、手指の腹に触れる滑り止め用の突状部 1 2 b、1 2 b が複数設けられており、摘んだ後にしっかりと保持しやすい構成となっている。

[0041] 以上の構成において、回動ピン 2 を取り付け際には、まず、図 5（A）に示すように第二係合部 1 2 を持ち上げるようにして連結部 1 3 を撓ませるとともに、回動ピン 2 をハンドルの先端部 4 4 と、ディスペンスヘッドのピン挿通部 3 4 に挿通させる。次いで、図 5（B）に示すように、回動ピン 2 の先端の位置に第一孔部 1 4 を合わせつつ、指で第二係合部 1 2 を矢印 R の方向に押すようにして、第一孔部 1 4 内に回動ピン 2 を挿入させて図 5（C）の状態とする。なお、本実施例では、回動ピン 2 の先端部 2 b をテーパ形状とすることで挿入しやすい構成が実現される。

[0042] 図 5（C）は、第一孔部 1 4 への挿入が完了した様子を示すものであり、この状態において、第二係合部 1 2 の肩部 1 2 k を下方向に押し下げることにより、図 5（D）に示すように第二孔部 1 5 へと回動ピン 2 を移動させることができる。

[0043] 逆に、回動ピン 2 を第二係合部 1 2 から外す際には、図 5（D）に示す状態において第二係合部 1 2 の先端部 1 2 s を押し上げることで、回動ピン 2 を第二孔部 1 5 から第一孔部 1 4 へ移動させて図 5（C）の位置に戻す。次いで、先端部 1 2 s を指で摘んで矢印 L の方向に第二係合部 1 2 を撓ませるように変形させることで、環状溝部 2 a を第一孔部 1 4 から抜き出して図 5（B）の状態とする。

[0044] 以上の構成において、図 5（D）の状態となった後は、回動ピン 2 の縦壁面 2 x が係合壁部 1 5 x に突き当たるため、回動ピン 2 の抜けが規制される。また、溝部 1 6 の幅 1 6 w は、環状溝部 2 a の幅 2 w よりも僅かに狭く構成されることで、意図的に力を加えない限りは、図 5（B）の状態とすることができない。このようにして、回動ピン 2 の抜けを防止する第一のロック

機構が構成される。

[0045] さらに、図5（C）の状態においても、意図的に力を加えない限りは、縦壁面2×が第一孔部14に引っかかるため、図5（B）の状態とすることができない。このようにして、回動ピン2の抜けを防止する第二のロック機構が構成される。

[0046] 以上のようにして第一、第二のロック機構が構成され、回動ピン2の抜けを二段階で防止することができる。なお、図5（D）の状態において矢印Lの方向に力を加えたとしても、第二係合部12の第二孔部15の箇所の変形量（撓み量）が小さいため、第二孔部15から回動ピン2を抜き出すことが極めて困難である。このことにより、第一のロック機構の機能がより確実なものとなる。

[0047] 他方、図5（C）の状態において矢印Lの方向に力を加えた場合には、第二係合部12の第一孔部14の箇所の部位の変形量（撓み量）が大きいため、第一孔部14から回動ピン2を比較的容易に抜き出すことができる。このように意図的に図5（C）の状態にした上で力を加えることによれば、回動ピン2を外すことができ、操作性に優れた構成が実現できる。

[0048] また、以上の一連の操作においては、図5（A）に示すように、連結部13を撓ませることで、第二係合部12に対する回動ピン2の係合／係合解除を行いつつ、ディスペンスヘッドから回動ピン2を引き抜くことができる。そして、この場合、ピン固定具1と回動ピン2は分離せずに第一係合部11側で接続されたままであるため、部品数を一つとして扱うことができ、ピン固定具1と回動ピン2が別々になって紛失することを防止できる。

[0049] また、回動ピン2のみであると転がり易く、紛失しやすいことや、置き場に困るということもあるが、ピン固定具1とともに一体に構成されることで転がり難くなり、取扱が容易になる。

[0050] 他方、所定の使用期間の経過後や、破損した場合などにおいては、合成樹脂製のピン固定具1と、金属製の回動ピン2を分離して個別に交換、或いは、分別処理などをすることができ、これにより、必要に応じて各部剤を再利

用や廃棄することが可能となり、コスト削減や環境保護に優れた構成を実現することができる。

[0051] 以上のように本発明を実施することができる。

即ち、図 1、及び、図 2 (A) に示すように、

飲料容器に取り付けて飲料を外部に取り出すためのディスペンスヘッド 3 のハンドル 4 の回動ピン 2 を、ハンドル 4 に対して着脱可能に固定するためのピン固定具 1 であって、

ハンドル 4 に対する自身の角度変更を規制するための規制部 1 1 b を有する、ピン固定具とするものである。

[0052] これにより、ピン固定具 1 の角度変更（回転）によって生じる不具合の発生を防止できる。

[0053] また、図 2 (A) ～ (C) に示すように、

回動ピン 2 の長手方向一侧に配置される第一係合部 1 1 と、

回動ピン 2 の長手方向他側に配置される第二係合部 1 2 と、を有し、

規制部 1 1 b は、第一係合部 1 1、又は／及び、第二係合部 1 2 に設けられ、ハンドル 4 の一部に係合することで回動が規制される構成とする。

[0054] これにより、ピン固定具の角度変更（回転）を規制する構成を実現できる。

[0055] また、図 2 (A) (B) に示すように、

第一係合部 1 1 は、

回動ピン 2 を挿入するための貫通孔（ピン固定部 1 1 a）を有する、こととする。

[0056] これにより、第一係合部 1 1 において、回動ピン 2 が半径方向に抜けることを防止できる。

[0057] また、図 2 (A) (B) に示すように、

第二係合部 1 2 は、

回動ピン 2 を挿入するための貫通孔（ピン固定部 1 2 a）を有する、こととする。

[0058] これにより、第二係合部 1 2 において、回動ピン 2 が半径方向に抜けることを防止できる。

[0059] また、図 5 (A) ~ (D) に示すように、
第二係合部 1 2 の貫通孔 (ピン固定部 1 2 a) は、回動ピン 2 と係脱可能に嵌合される、こととする。

[0060] これにより、メンテナンス時など必要に応じて第二係合部 1 2 から回動ピン 2 を外すことで、回動ピン 2 を抜き出してハンドル 4 を分離することができる。そして、メンテナンス後は再び第二係合部 1 2 に回動ピン 2 を係合するで、再びロックすることができ、ピン固定具 1 を再利用することができる。

[0061] また、図 4 (A) ~ (C) に示すように、
第二係合部 1 2 の貫通孔は、
回動ピン 2 の軸方向に移動して回動ピン 2 との係脱がなされる第一孔部 1 4 と、
第一孔部 1 4 から半径方向にずれた位置において、回動ピン 2 との係脱がなされる第二孔部 1 5 と、
第一孔部と第二孔部の間で回動ピン 2 を移動させるための溝部 1 6 と、
を有する、こととする。

[0062] これにより、回動ピン 2 の意図せぬ抜けを防止するための二段階のロック機構を実現することができる。

[0063] また、図 2 (A) に示すように、
第一係合部 1 1 と第二係合部 1 2 を繋ぐ連結部 1 3 を有する、こととする。

[0064] これにより、第一係合部 1 1 と第二係合部 1 2 を一物品として取り扱うことができ、取扱性に優れた構成を実現できる。

[0065] また、図 2 (A) に示すように、
ピン固定具 1 と、回動ピン 2 と、を有するピン部材 5 として構成することとする。

[0066] これにより、例えば、回動ピン 2 のみであると転がり易く、紛失しやすいことや、置き場に困るということもあるが、ピン固定具 1 とともにピン部材 5 として一体に構成されることで転がり難くなり、取扱が容易になる。また、所定の使用期間の経過後や、破損した場合などにおいては、ピン固定具 1 と、回動ピン 2 を分離して個別に交換、或いは、分別処理などを行うことができ、これにより、必要に応じて各部剤を再利用や廃棄することが可能となり、コスト削減や環境保護に優れた構成を実現することができる。

[0067] また、以上の説明においては、図 2 (A) ~ (C) に示すように、連結部 1 3 により第一係合部 1 1 と第二係合部 1 2 が連結される構成としたが、各部位を別部材で構成し、分解可能に構成してもよい。また、連結部 1 3 を設けずに、第一係合部 1 1 と第二係合部 1 2 のみで構成することとしてもよい。また、連結部 1 3 を設ける代わりに第一係合部 1 1 と第二係合部 1 2 を紐などの別の部材で繋ぐこととしてもよい。また、第二係合部 1 2 の貫通孔（ピン固定部 1 2 a）において、第二孔部 1 5 に加え、さらにもう一つ、或いは、複数の貫通孔を設けることとしてもよい、これによれば、二段階のロックに加え、三段階、さらには、四段階などの多段ロック機構を実現することもできる。

符号の説明

- [0068]
- 1 ピン固定具
 - 2 回動ピン
 - 3 ディスペンスヘッド
 - 4 ハンドル
 - 5 ピン部材
 - 1 1 第一係合部
 - 1 1 a ピン固定部
 - 1 1 b 規制部
 - 1 1 c 第二規制部
 - 1 2 第二係合部

1 2 a ピン固定部

1 2 c 第二規制部

1 3 連結部

1 4 第一孔部

1 5 第二孔部

1 6 溝部

請求の範囲

- [請求項1] 飲料容器に取り付けて飲料を外部に取り出すためのディスペンスヘッドのハンドルの回転ピンを、前記ハンドルに対して着脱可能に固定するためのピン固定具であって、
前記ハンドルに対する自身の角度変更を規制するための規制部を有する、
ピン固定具。
- [請求項2] 前記回転ピンの長手方向一侧に配置される第一係合部と、
前記回転ピンの長手方向他側に配置される第二係合部と、を有し、
前記規制部は、前記第一係合部、又は／及び、第二係合部に設けられ、前記ハンドルの一部に係合することで回転が規制される構成とする、
ことを特徴とする請求項1に記載のピン固定具。
- [請求項3] 前記第一係合部は、
前記回転ピンを挿入するための貫通孔を有する、
ことを特徴とする請求項2に記載のピン固定具。
- [請求項4] 前記第二係合部は、
前記回転ピンを挿入するための貫通孔を有する、
ことを特徴とする請求項3に記載のピン固定具。
- [請求項5] 前記第二係合部の前記貫通孔は、前記回転ピンと係脱可能に嵌合される、
ことを特徴とする請求項4に記載のピン固定具。
- [請求項6] 前記第二係合部の前記貫通孔は、
前記回転ピンの軸方向に移動して前記回転ピンとの係脱がなされる第一孔部と、
前記第一孔部から半径方向にずれた位置において、前記回転ピンとの係脱がなされる第二孔部と、
前記第一孔部と前記第二孔部の間で前記回転ピンを移動させるため

の溝部と、

を有する、

ことを特徴とする請求項 5 に記載のピン固定具。

[請求項 7]

前記第一係合部と前記第二係合部を繋ぐ連結部を有する、

ことを特徴とする請求項 1 乃至請求項 6 のいずれか一項に記載のピン固定具。

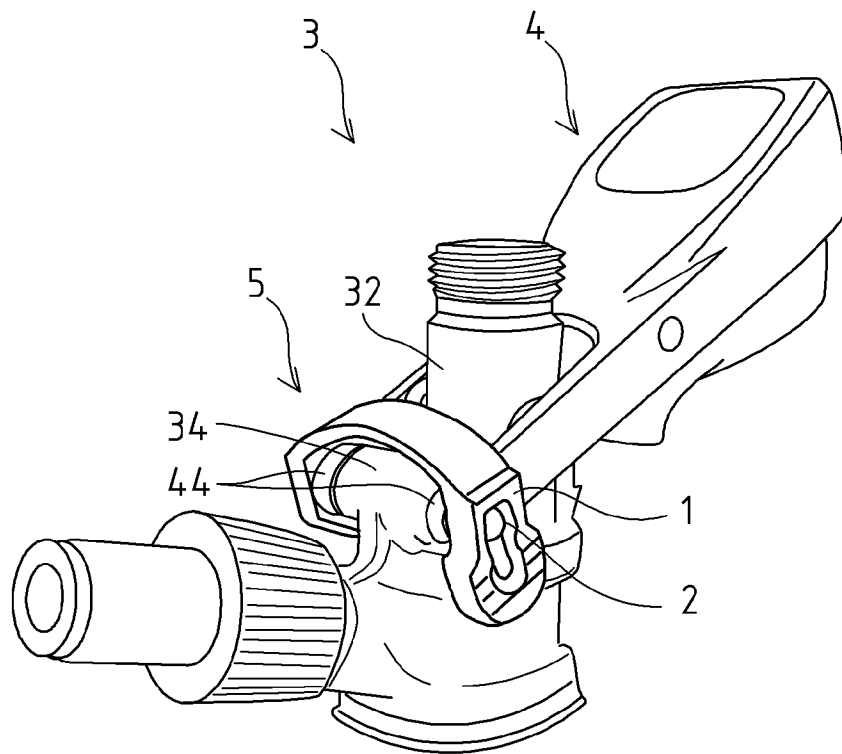
[請求項 8]

請求項 1 乃至請求項 7 のいずれか一項に記載のピン固定具と、

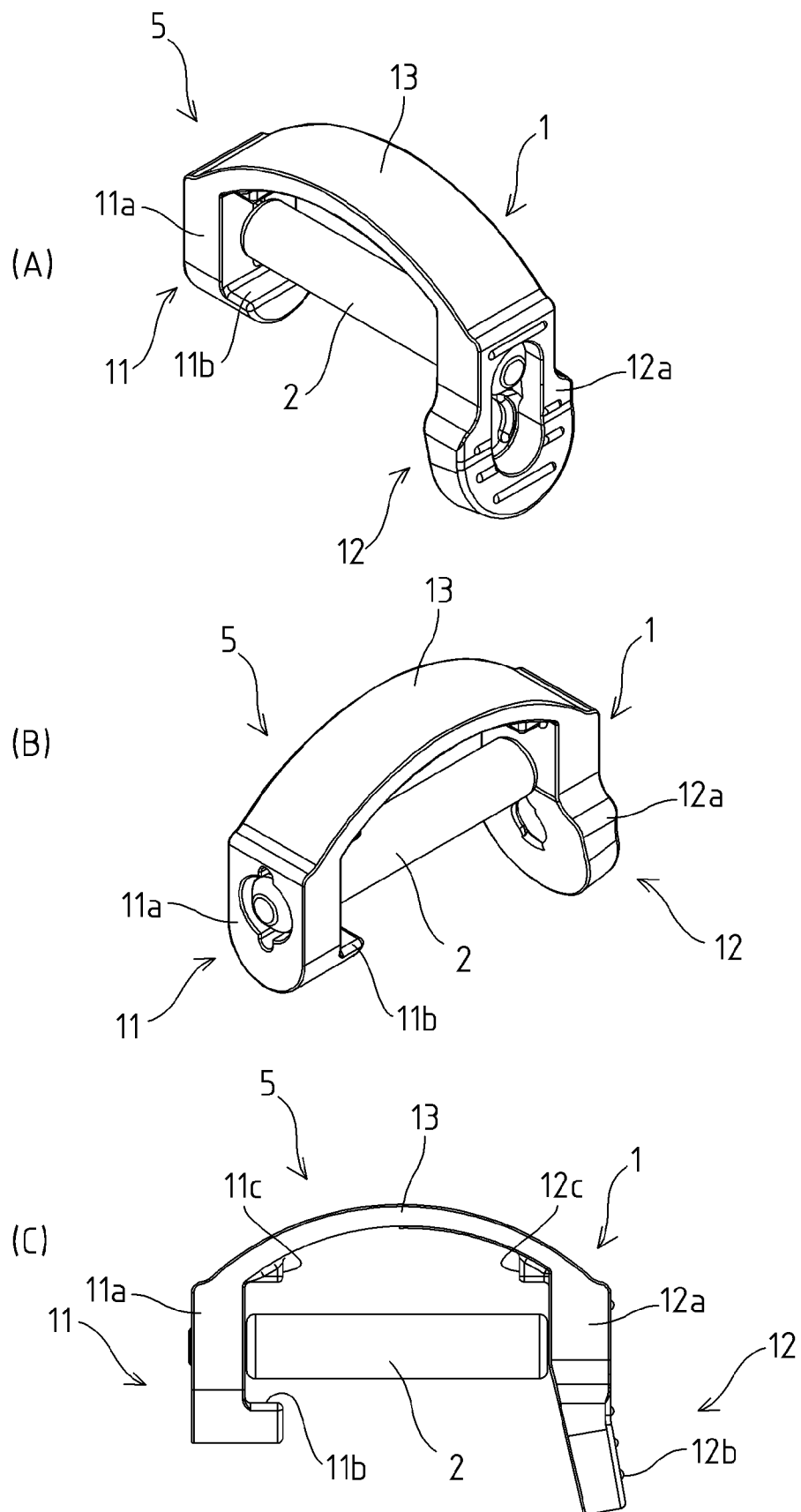
前記回転ピンと、

を有するピン部材。

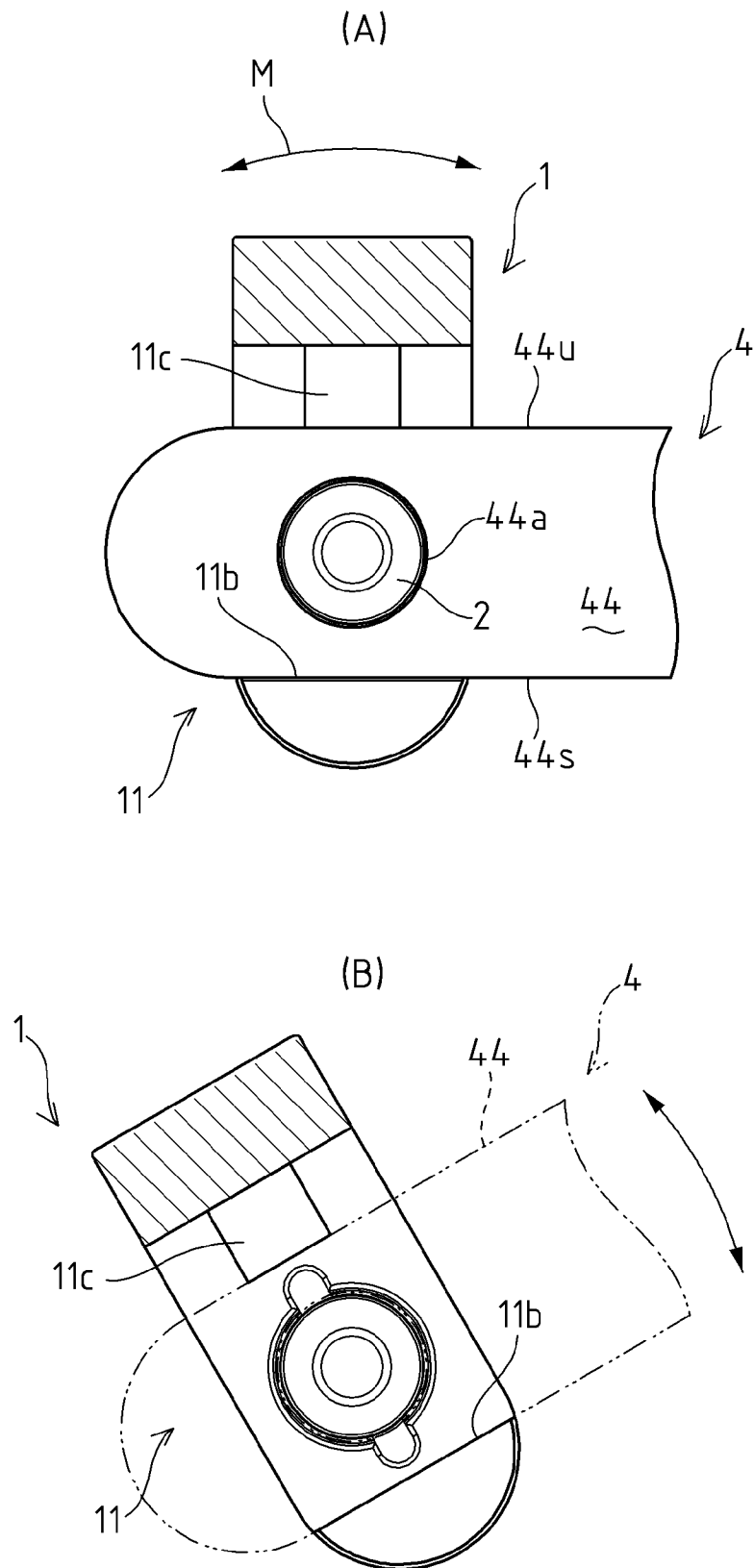
[図1]



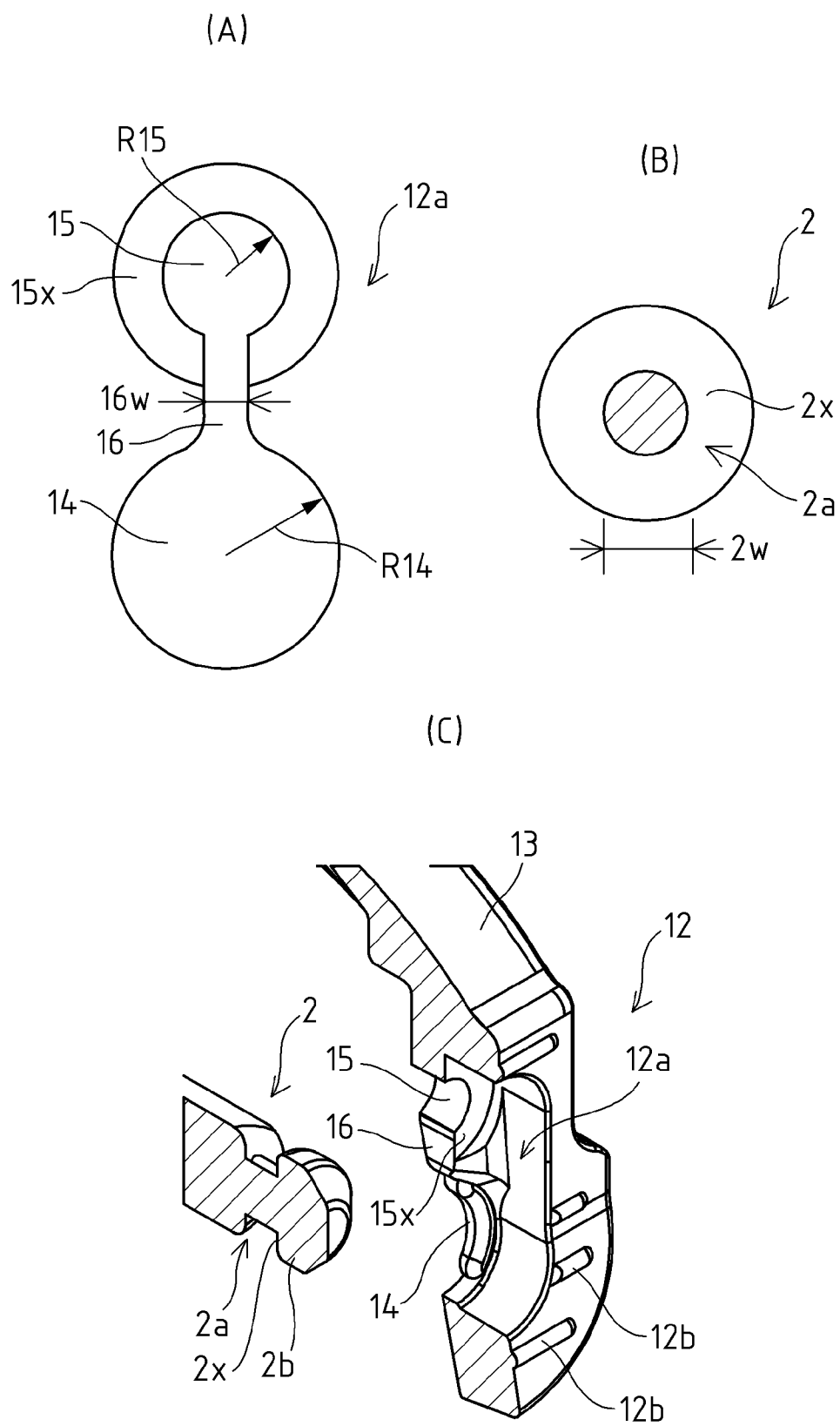
[図2]



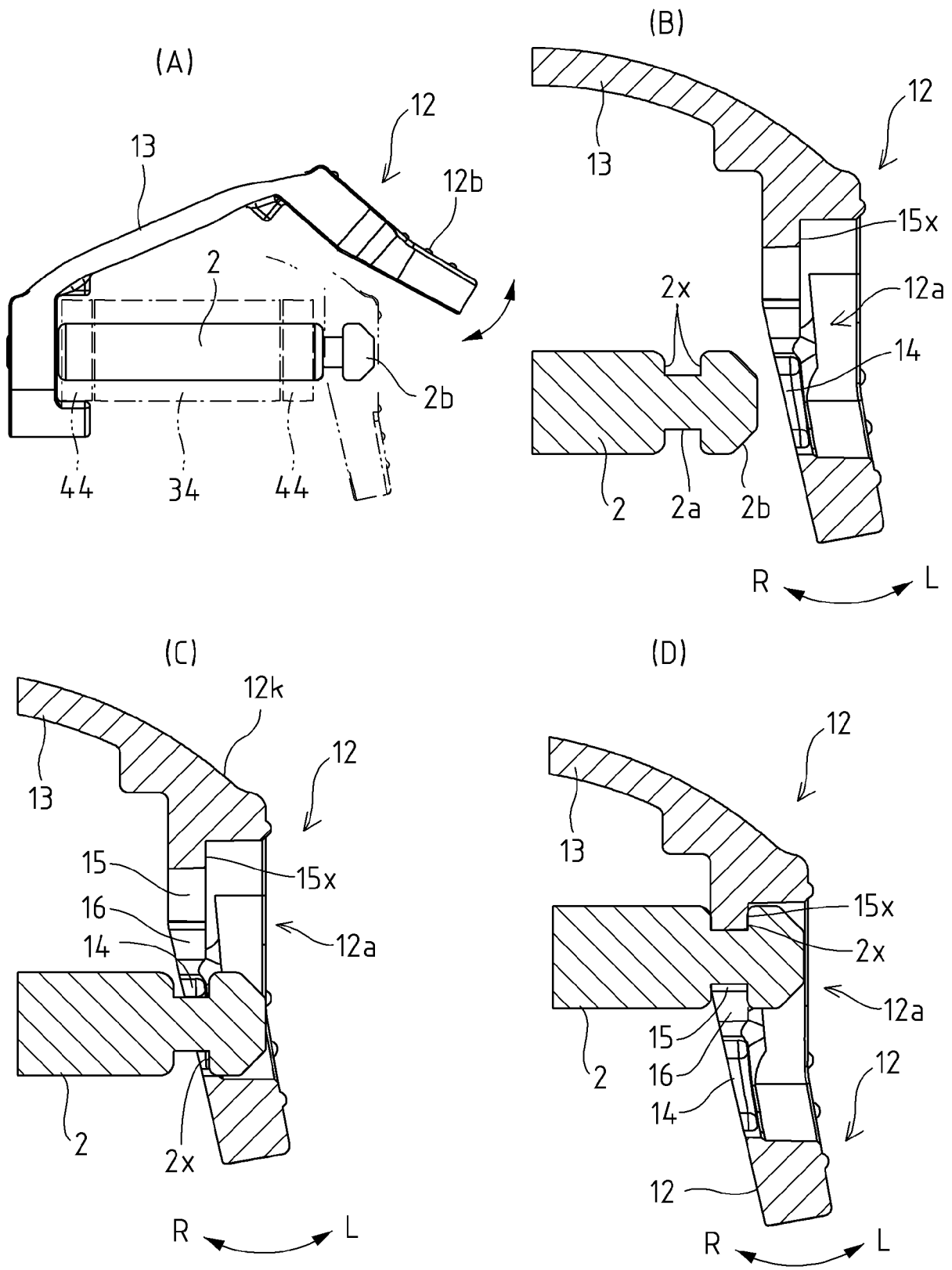
[図3]



[図4]



[図5]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2018/003683

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

Int.Cl. B67D1/04 (2006.01) i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

Int.Cl. B67D1/04

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Published examined utility model applications of Japan	1922-1996
Published unexamined utility model applications of Japan	1971-2018
Registered utility model specifications of Japan	1996-2018
Published registered utility model applications of Japan	1994-2018

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	US 4538746 A (VENDING COMPONENTS, INC.) 03 September 1985, column 2, line 37 to column 4, line 25, fig. 2-5 & CA 1232583 A	1-8
A	US 4291821 A (THE PERLICK COMPANY, INC.) 29 September 1981, column 6, lines 19-25, fig. 1 (Family: none)	1-8

☐ Further documents are listed in the continuation of Box C.	☐ See patent family annex.
* Special categories of cited documents: "A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance "E" earlier application or patent but published on or after the international filing date "L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified) "O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means "P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed	"I" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention "X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone "Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art "&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search 18 April 2018 (18.04.2018)	Date of mailing of the international search report 01 May 2018 (01.05.2018)
Name and mailing address of the ISA/ Japan Patent Office 3-4-3, Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8915, Japan	Authorized officer Telephone No.

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（IPC））

Int.Cl. B67D1/04 (2006.01) i

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（IPC））

Int.Cl. B67D1/04

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1922-1996年
日本国公開実用新案公報	1971-2018年
日本国実用新案登録公報	1996-2018年
日本国登録実用新案公報	1994-2018年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
A	US 4538746 A (VENDING COMPONENTS, INC.) 1985.09.03, 第2欄第37行-第4欄第25行, 第2-5図 & CA 1232583 A	1-8
A	US 4291821 A (THE PERLICK COMPANY, INC.) 1981.09.29, 第6欄第19行-第25行, 図1 (ファミリーなし)	1-8

C欄の続きにも文献が列挙されている。

パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」 特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
「E」 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
「L」 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）
「O」 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
「P」 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
「X」 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
「Y」 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
「&」 同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

18.04.2018

国際調査報告の発送日

01.05.2018

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/J P)

郵便番号 100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官（権限のある職員）

正木 裕也

30

4859

電話番号 03-3581-1101 内線 3358